

情勢報告（平成28年9月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

ニラ産地の維持・拡大に繋げる、そぐりセンター設立に向けて



最新機種の説明会

J Aコスモスニラ生産部では、そぐり手（出荷調製作業員）不足解消に向け、「J Aそぐりセンター」設立の準備を進めています。

9月2日に関係機関で設置場所や導入機械についての意見交換や、9月7、13日には生産部役員と効率的な運営体制の協議と、機械メーカーから最新製品の説明を受けるなど、ランニングコストを抑えるための情報収集を行いました。

普及所では、そぐり作業の機械化に適応した品質や栽培管理等の情報提供を行うとともに、円滑なそぐりセンターの運営を支援していきます。

夏秋高糖度トマト「びゅあトマト」の安定出荷のために



トマトほ場での土壌分析

J Aコスモス夏秋トマト生産部会では、4名の生産者が高糖度トマトを栽培しており、「びゅあトマト」のブランドで出荷販売しています。

普及所は、1～2週間毎にJ Aと現地を巡回し、土壌pH・ECおよび葉柄中樹液濃度（硝酸態窒素）を測定しています。

測定値の推移を示すとともに、測定結果に基づいた生育判断や肥培管理について助言指導を行っています。

生産者からは「今後の栽培管理の目安になる」「生長点が伸びると数値が下がることがわかった」など、栽培管理に役立っているとの意見も聞かれています。

普及所では安定生産に向け、今後も支援していきます。

小学生からお茶に慣れ親しむ ―香美市立大宮小学校でお茶の出前授業を開催―



茶の摘採機に注目



お茶の入れ方を学習

9月16日、茶生産者、J Aコスモス職員、当普及所職員の3名が講師となり、香美市立大宮小学校3年生25名を対象に、茶の種類、茶の生産状況、製茶方法、急須を使った茶の入れ方などについて、お茶の出前授業を行いました。

また、教室に茶の摘採機を持ち込み、児童による茶の摘採の疑似体験も行いました。

摘採機を初めてみた児童が多く「大きい、重そう、しんどそう」といった声や、お茶の入れ方では、家に急須があるものの、ほとんどの児童が自分で入れるのは初めてで「おいしかった。家でもやってみたい」といった感想が聞かれました。

普及所では成人対象のお茶講座も開催しており、急須を使ったお茶の飲み方の普及にも努めていきます。

仁淀川流域茶の販売拡大のために ―茶の魅力再発見！勉強会2回目を開催―



自分達のお茶の魅力を伝えるには？

9月6日、当普及所において仁淀川流域茶産地振興協議会の勉強会を開催し、茶生産者やJA職員など19名が参加しました。

中村雅子氏による2回目の講義では、消費者に自分達の茶の魅力を伝え、購買意欲を高めるため、茶の入れ方や食材との相性を考えるとともに、栽培方法を再確認し、いかに効率的・効果的に消費者に伝えていくか学習しました。

参加者からは「今まで伝えられていなかったことが判ってうれしい」などの感想が聞かれました。今後、自らの言葉で茶の魅力を発信したり、具体的な接客技術の指導を受ける内容での勉強会を開催します。

普及所では、勉強会の内容について、講師や協議会事務局と調整しながら、茶の販売拡大に向けた支援を行っていきます。

WCS鉄コーティング直播栽培実証は現地検討会の開催



試験結果の報告、意見交換

8月23日、全国農業システム化研究会事業によるWCS鉄コーティング直播栽培の現地検討会が佐川町で開催され、県農業および畜産関係機関、JA、資機材メーカー、生産者等、約20名が参加しました。

当日は、非食用米生産のポイントとなる鉄コーティング直播と低コスト肥料の実証試験について、普及所から生育や収量への影響について中間報告を行い、その結果や現況について意見交換を行いました。

水稻をめぐる情勢は変化していますが、省力化・低コスト技術は、どのような用途の水稻でも応用が可能な技術です。普及所では、これからも水稻全体の技術向上を目指して支援していきます。